

血液内科

部長 上村 由樹

診療

当院では 2016 年に血液内科が開設され、本年度で 9 年目を迎えます。当院の外来・入院患者の多くは高齢者であり、複数の基礎疾患や合併症を有している症例が少なくありません。当科で診療する血液腫瘍患者においても高齢者が多数を占めており、若年者に対して行うような強力な化学療法は、かえって予後や生活の質（QOL）を損なう可能性があります。

近年、多くの分子標的薬や新規治療薬が開発されたことにより、高齢者血液腫瘍における治療成績および QOL は大きく改善してきました。血液疾患領域における治療の進歩は目覚ましく、現在も有効性の高い新薬が次々と臨床導入されています。当科では、これらの最新の知見を積極的に取り入れながら、患者一人ひとりの背景や全身状態に応じた最適な治療方針を検討することを重視しています。

一方、血液腫瘍に対する化学療法により、患者は重度の好中球減少に陥り、易感染状態となることが少なくありません。当科では感染予防対策として、HEPA フィルターを備えた層流式ベッドを使用していますが、防御範囲がベッド周囲に限定されることや、患者にとって閉塞感や動作制限が強いといった課題があります。

今年度は、これらの問題を解消し、より安全で快適な治療環境を提供するため、**無菌室（クリーンルーム）を新設する予定**です。

施設認定

日本血液学会 認定血液研修関連施設

人事

砥谷和人科長 2023 年 9 月より勤務開始

教育

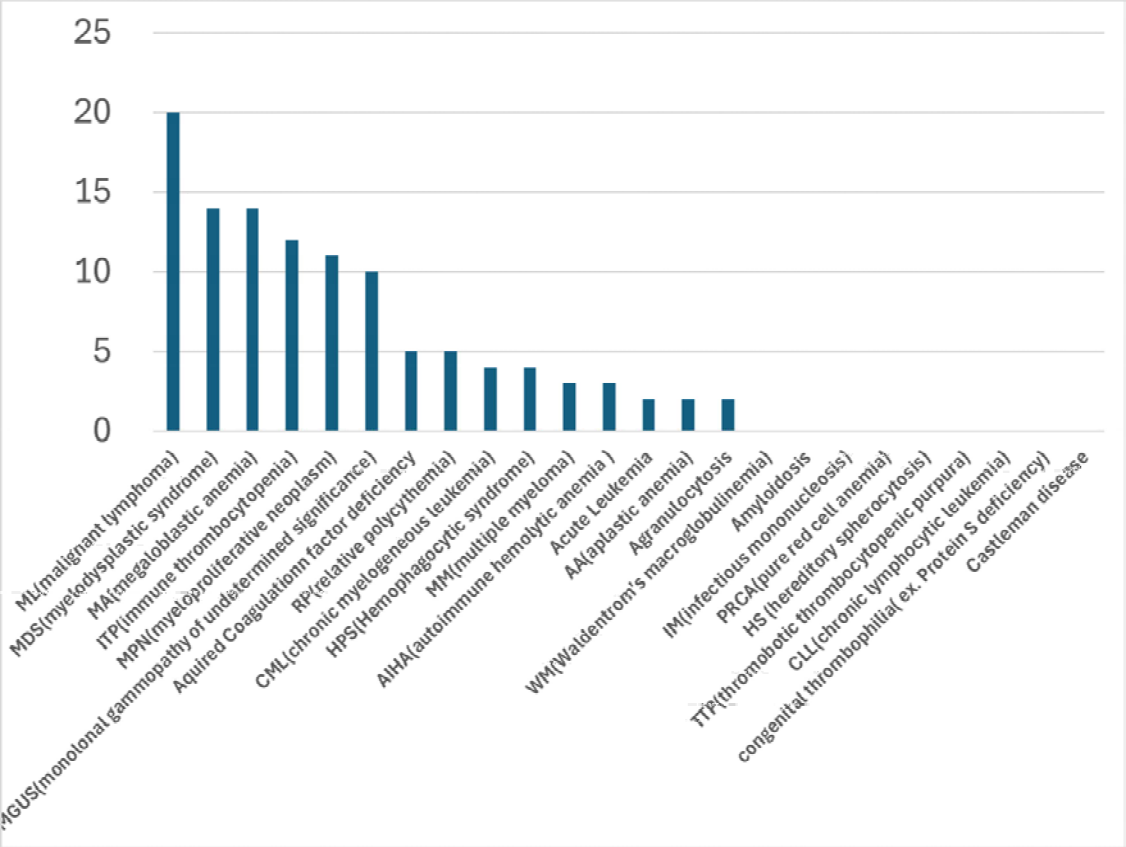
他科研修中の研修医から、頻繁に受け持ち患者の蛋白分画異常、貧血、白血球数異常、血小板減少、リンパ節腫大についての相談を受けます。治療を必要とする血液疾患と診断される場合、当科主導で治療を行います。当科をローテートする研修医は年間一人いれば良い方ですので、他科研修中に血液疾患の指導を行う機会を持つようにしています。当科で過去に診療した血液疾患は下記に示すように広範囲にわたります。当院は日本血液学会専門研修教育施設に認定されています。施設基準により、血液専門医を育成することはできませんが、内科専門医の認定に必要な症例は質、数共に確保できます。研修医に血液疾患に興味を持って頂き、高知県の血液内科の増員に少しでも貢献したいと考えています。

課題

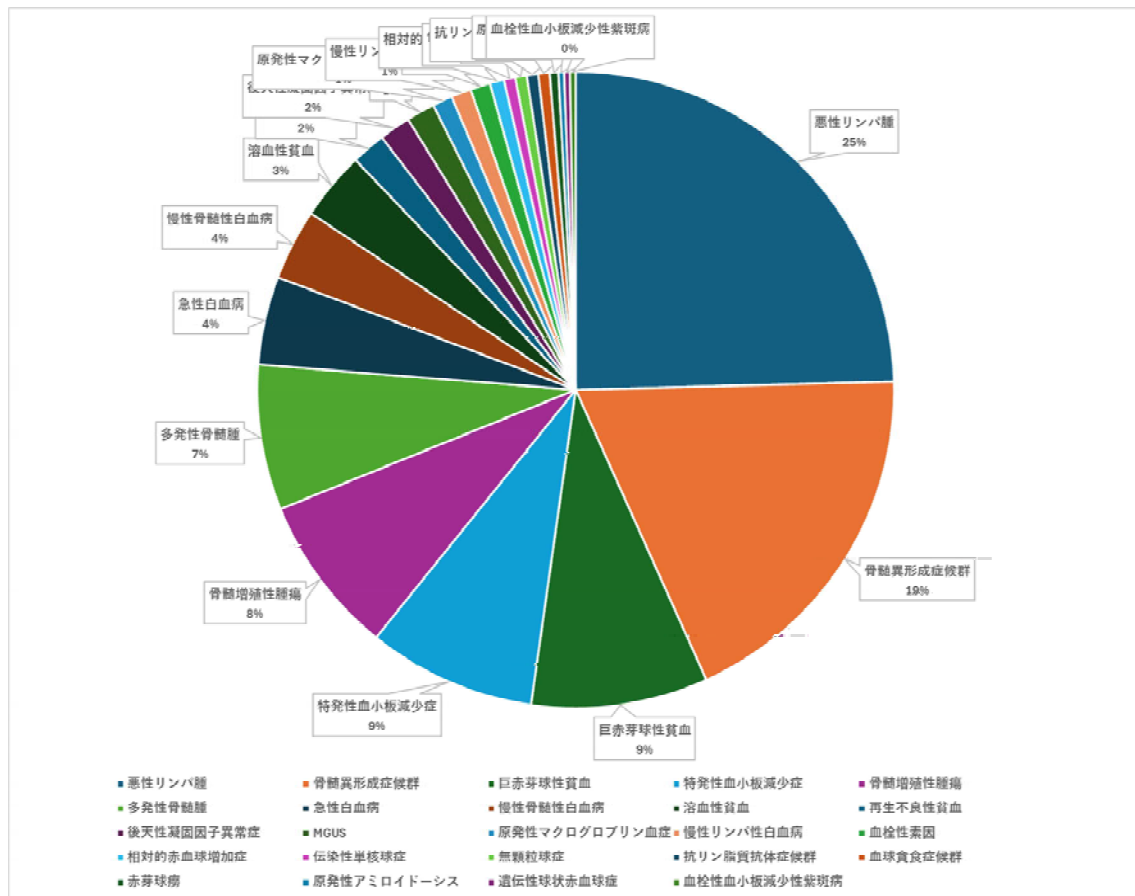
高知県は、基幹病院以外に血液疾患の診療が可能な病院がわずかしかないため、当科でも転院先には苦慮しています。そのため血液疾患患者は入院期間が長期化し、当院の救急病院としての機能を損なうという懸念があります。安定化した患者をスムーズに受け入れてもらえるよう、地域の病院との連携の強化が課題です。

診療実績

n=111(2025)



n=691 (2016-2025)



講演会

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
骨髄移植の知識を深めよう	上村由樹（司会）	第 31 回高知県骨髄移植講演 会 & ドナー登録会	R7 年 10 月 18 日 高知

論文発表

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
Successful Hemostasis With Platelet Transfusion and Tranexamic Acid, and Inhibitor Elimination With Cyclosporine, in Steroid-Resistant Acquired Coagulation Factor V Deficiency Caused by Antibiotic Readministration	Kazuto Togitani [□] Moe Yamamoto ^{□□} Soichiro Tanaka ^{□□} Rei Aono ^{□□} Yoshiki Uemura [□]	Case Rep Hematol	2025 Jul 8:2025:14 02790. doi: 10.1155/c rh/14027 90.